

Case.22

支援する側の スキルアップで 障がい者が暮らしやすい社会へ



そうま たえこ
相馬 妙子 さん

第8期生(平成27年度修了)

屋号 ソーシャルサポート
ビジネス研究所
創業日 平成28年10月1日
創業時の年齢 50歳
所在地 厚木市上落合
電話番号 090-2547-7126
事業内容 人材育成サポートほか

相馬妙子さんは、障がい者施設で働いていたご自身の経験から、福祉施設の職員がスキルアップできないという福祉現場の状況を変えるため、業界の考え方から変えていこうと努力されています。そして、障がい者への理解を求める活動もされています。

福祉系コンサルタント

私は、障がい者施設などの福祉サービス事業所で「精神保健福祉士」という資格を生かしながら、職員のスキルアップのためのOJTの実施やメンタルヘルスに関することなど人材育成を中心としたコンサルティングをしています。その他には、セミナーや勉強会などの講師、自治体の障がい者福祉関係の審査会の仕事もいただいています。



職員のスキルアップ

私がこの仕事を始めたきっかけは、私自身が障がい者施設でケースワーカーとして働いていた経験から、現場で働く職員のスキルアップの機会がないと感じたことです。外部の研修はありますが、とても忙しい現場では、研修で学んだことを実践する余裕がありません。中には自分で時間を作ってスキルアップを図る人もいますが、自己流で仕事をする方や、やりがいや充実感を感じていない方も多いと思います。

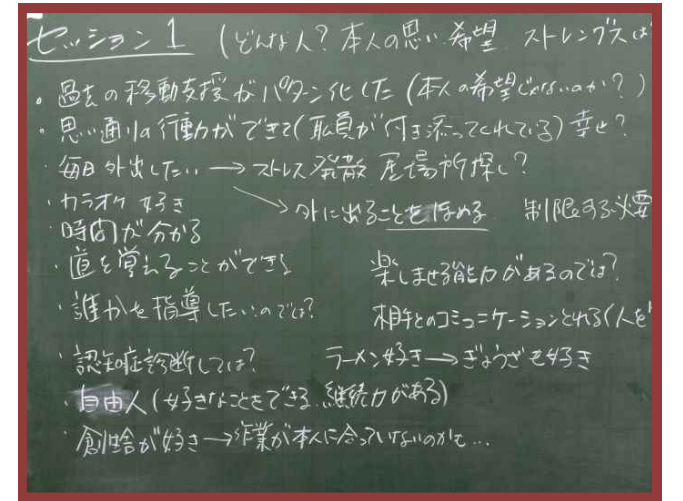
そこで現場で働く職員の質全体を高めたいと考えた私は、障がい者などを支援する職員のスキルアップなどの人材育成を専門的に行う人が必要だと考えました。

想いを形にする場所

あつぎ起業スクールの魅力は、専門家である講師に相談できることや同期の方から刺激を受けられることだと思います。私もあつぎ起業スクールを受講し、講師の方々や違う業界で起業を考えている同期の方と出会うことで、自分の想いを形にすることができました。そして、起業を決断し、初めに自分が勤めていた施設と契約を結び、自分が考えていたことを実践しています。

起業を目指す方へ

私のように「こんなことって仕事になるの?」というような、どう形にしたらできるのかわからない起業もあると思います。そんなときは、講師はもちろんのこと異業種の方々のお話を聞いて、やりたいことに肉付けをしてみてください。起業スクールは、本当にやりたいことを形にしていく段階だと思います。



まずは実績づくりから

元々この業界では、スキルアップの情報交換などは、他の施設の職員がボランティアで行ったりするケースが多いようです。そのため、私のようなコンサルタントを雇うための予算を計上していなかったり、そもそも有料ということでお断りされることも多く、顧客を開拓していくことに苦勞しています。まずは実績を作るためにも、今お仕事をいただいている施設で、自分の思い描く組織を実現できればと思います。後々は、法人化し、共感する仲間と一緒にこの仕事を業界全体に浸透させ、最終的には障がいのある方とない方が同じように暮らすことができる社会を作ればと思います。

